



第23号

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成18年3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| P2 鷺ノ巣山公募観察会
初の高砲台跡探訪 | P5 向宇品観察会、岩国歴史探訪 |
| P3 「史跡探訪」明治の砲台跡」 | P6 秋の植物観察会、指導者研修会 |
| P4 研修会「気象の話」 | P7 投稿「石垣島の自然」田村博子
編集後記 |



ツチトリモチ (ツチトリモチ科)

ハイノキ属の樹木の根に寄生する多年草
ここではクロキに寄生。葉緑素を持たない
が茎には不ぞろいの鱗片葉がある。
初めて見たときはキノコかと思った。
雌雄異株だが雄株は発見されていない。
(12/4 向宇品観察会で撮影)
※観察会記事はP5に掲載

(写真・文) 六重部 篤志

4月8日(土)

総会

平成18年度PVの会 定期総会を下記要
領で開催しますので、多数ご出席下さい
日時 4月8日 10:30~12:00
(10:10より受付)
場所 宮島支所(旧町役場) 会議室

鷹ノ巣山観察会大盛況！

初の高砲台跡探訪

一般参加者 79 人

PV の会設立時から清掃、整備を続けてきた、鷹ノ巣山（188m）高砲台跡探訪の公募観察会を 2 月 5 日（日）に企画したところ、中国新聞に写真入りで紹介されたこともあり、79 人の一般参加者があり大盛況となりました。

（参加者） 足立 池下 小方ペア 小川 佐渡 佐藤 島 新川 末原 坪井 中道
名越 野呂田 平山 古川 前田（勲）前田（正）舛田 丸平 村上 森 柳瀬 矢吹
山根 六重部 高木自然保護官

今回は登山道を使わないので、事前に林野庁広島森林管理署に入山について了解をいただき、前日の幹事会で細部まで入念な打ち合わせを行い、安全面等に十分配慮しました。参加した PV は 26 名とこれも今までの公募観察会では最高の人数となり、各自役割りを分担し、大集団をサポートしました。

冷え込む中、9 時半に包ヶ浦に集合し開会。参加者は 8 班に分れ、当時伝令が走ったといわれるルートで高砲台跡を目指しました。ここは足元が腐葉土に覆われフカフカで皆さん楽しそうに歩んでいました。

道中では新川さんが纏めた資料「包ヶ浦～鷹ノ巣砲台周辺の植物」にある、タマミズキ（果実も発見）ヒノキバヤドリギ、タイミンタチバナなどたくさんの植物を観察することができました。



砲台跡を探訪する参加者

高砲台跡では安全のため 4 班ずつに分れ交代で頂上の観測所跡へ登りました。PV が 5

年がかりで通路、階段を掘り出し、崩落した場所を土のうで補修したことなど参加者に説明しました。

参加者の中には瀬戸内の他の砲台に詳しい人もいて、史跡として保存する意義について話が盛り上りました。観測所跡では中道さんの軽妙なウイットに富んだ説明が皆さんを魅了し、また頂上からの広島湾を一望する見晴らしの良さにも感激し



包ヶ浦センターでの開会あいさつ

たようでした。

その後広場で昼食、帰途は車道を歩くルートをとり、トキワガキ、ハマニンドウ、サカキカズラなどを観察しながら無事予定通りの時間に包ヶ浦に戻りました。

今回の砲台跡見学は参加者が予定の3倍近くもあったように、人気のコースとなりそうです。この付近の植物や鳥などの動物たちに

「嫌なやつらが来るようになった」と思われないように配慮しながら、2回目以降も実施できればと思います。（小川記）

※ 下見観察会 1月29日(日)

（参加者）足立 池下 岩崎 小方（嗣）
小川 新川 高光 坪井 中道 野呂田
平山 前田（勲）舛田 丸平 村上
柳瀬 六重部

史跡探訪 明治時代の砲台跡

中道会員はこの程、宮島再発見「史跡探訪」シリーズ明治時代の砲台跡と題した小冊子を纏められました。

A5版43ページに亘り包ヶ浦地区が、かつて旧陸海軍の要塞地帯として開発され、約100年前に砲台が建設された経緯から、関連施設の概要、包ヶ浦地区で見られる植物などにも言及し、鷹ノ巣高砲台跡の配置図も見開きで入っており、豊富な写真とともに非常に興味深い内容になっています。

今回の公募観察会に参加者に配布され、大変喜ばれました。PV会員には印刷代実費300円で分譲されます。



観測所跡でのスタッフ



パークボランティアの会旗

PV会員からのデザインをベースに制定した会旗が、このほど出来上りました。中央に瀬戸内海国立公園のシンボルマークが描かれており 900×600mm と小旗 450×300mm の2種類です。早速、2月5日の公募観察会で使用しました。



研修会

気象のあれこれ
大平先生の話

山根 浩二

12月3日（土）13:00から宮島支所会議室に於いて年に一度の研修会が開催されました。今年のテーマは「気象」講師はNHK 広島の夕方の天気予報でお馴染みの気

象予報士 大平眞二さん
もともと気象の話には興味があったので、飽きることもなくあつという間の2時間でした。以下お話を抜粋し要約したものです。

【気象、天気、天候、気候】

似たような言葉ですが、それぞれ意味が異なります。「気象」とは、大気の状態のこと。「天気」とは、現在（またはごく短期間）の空模様。「天候」とは、少し長い期間（1週間とか数ヶ月とか）に見られる天気の様子。「気候」とは、天候を長い期間（30年とか）で平均化したもののことだそうです。

【日本の気候】

地球規模で見て中緯度地域は高気圧が発生しやすく、砂漠など乾燥地帯が広がっています。日本も中緯度に位置しますが、乾燥は強くありません。むしろ世界的に見たら雨が多い方です。これは日本が海に囲まれていることが影響しています。

大陸は温まりやすく冷めやすい。逆に海洋は温まりにくく冷めにくい。夏には大陸が熱くなり、大陸の空気が強く上昇します。そこに向かって海洋から空気が移動します。即ち太平洋から日本を超えて大陸に向かって風が吹くのです。この風は海を渡ってくるので湿気を多く含んでいます。

冬はその逆。海洋の方が暖かいので海洋で上昇気流が発生し、大陸から海洋に向かって風が吹くことになります。この風は大陸で強



く冷やされた風です。でも日本の冬は大陸ほど寒さが厳しくありません。これは日本海があるおかげ。大陸から吹いてくる冷たい風が日本海で暖められるのです。

【広島市周辺の気候】

瀬戸内海の気候の特徴は「温暖少雨」といわれますが、瀬戸内海一帯がみな同じわけではありません。典型的な瀬戸内海気候を示すのは、福山市や岡山市、愛媛県の東予、中予あたり。広島市周辺は結構雨が多いのです。現に広島市は福山市より年間で300ミリ以上も降水量が多い。なぜ広島市は雨が多いのかというと、地形的な要素も大きいのです。

広島市には一冬に何回か雪が降ります。冬は大陸から吹いてきた冷たい風が日本海上空で湿り気を帯び雪雲を作ります。普通は中国

山地にぶつかってそこで雪を降らせ、乾燥した空気のみ山を超えてくるのですが、広島市の場合は背後の陸地の幅が狭いので雪雲が雪を降らせきる前に中国山地を乗り越えてやって来るのです。福山市あたりだと陸地の幅が広いので、日本海上空で帯びた湿り気は福山

市に来る前に全部雪として降らせきってしまうのです。

また夏に広島市周辺に雨が多いのは、太平洋から吹いてくる湿った風が四国山脈に遮られることなく豊後水道を通り抜けてやってくるから、福山市辺りでは四国山脈の高知県側で雨を降らせたあとの乾いた風が来るので雨雲ができにくいのです。

他にも興味深いお話をたくさんありました。紙面の都合で割愛させていただきます。閉会後、部会毎に打ち合わせを実施、夕方からは場所を山村茶屋に移し、新鮮な殻付きカキバーベキューの忘年会となりました。

向宇品観察会

日時 12月4日（日）10:00～14:00

場所 プリンスホテル前集合

参加者 高光 野呂田 前田（勲）舛田
村上 柳瀬 山根 横路 六重部
高木自然保護官

落ち葉の間から、妖しく顔を覗かせる奇妙な植物「ツチトリモチ」その姿の珍しさに、思わず傷つけないように、そっと触ってみる。周囲を見渡すと、あちこちで赤い頭が並んでいる。タイミングよくこの植物に出会えた喜びと共に、地元の人たちの保護活動に感謝。

今回の観察会はまだハゼノキの美しい葉が残っていたが、折からの寒波で時々小雨のぱらつく寒い一日でした。海岸の遊歩道を、強



雨中の観察会

風で打ち寄せる波しぶきを気にしながら出発しました。今の季節常緑樹の赤い実が目に付く。クコやマサキ、カクレミノ、シロダモ、アキグミなど。またイヌビワやクロキは黒紫色の実をたくさんついている。落ち葉に混じる大小のドングリを拾いながらアラカシ、コナラ、アベマキ、ウバメガシ、ツブラジイなどのブナ科の樹木を見つけるのも楽しい。

海岸の岸壁では 8500 万年前の新生代初期に形成された元宇品の黒雲母花崗岩の地層に、数々の岩脈や断層、海食洞などが観察できる。

爆心地から約 5.2km。閃光、爆風から生き延びたのであろうか、照葉樹の大木が繁る原生林の自然豊かな元宇品公園である。

いよいよ冬を迎えるこの時期、冬芽の先端を僅かにピンクに染めたタブノキ。春への準備をしている植物の逞しさを感じる。「花期のツチトリモチを観察する」という目的を果たし、充実した一日でした。 (横路 記)

岩国歴史探訪

日時 12月10日（土）10:00～15:00

場所 錦帯橋畔集合

参加者 足立 小方ペア 近藤 島 末原
中道 西 野呂田 平山 前田（勲）
舛田 村上 森川 横路

時折薄日がさす寒い日でしたが 15 名の参加者で、先ずは台風 14 号で橋脚の一部が流失した錦帯橋の構造を裏側から見て、出発しました。

錦帯橋は岩国藩主三代目、吉川広嘉が創建したもので、先の平成の架替には 26 億円掛かったうち、19 億円を積み立てていた、通行料等で貯ったそうです。

武家屋敷のあった吉香公園を観光ガイドさんの説明を聞きながら散策しロープウェイで岩国城に行きました。市街はもちろん遠くの島々も見渡せるのですが、やはり基地のことが、一番の話題になりました。

植物や野鳥観察等、各自楽しみながら「佐々



紅葉谷公園～吉川家墓所巡り

木小次郎の像」の所まで帰り、一旦解散、昼食となりました。

午後は希望者だけで吉川家の墓所巡りをし、初代広家公に茶人仲間であり縮景園を造られた上田宗箇から贈られたという「みみずくの手水鉢」を見に行きました。紅葉谷公園には宇野千代さんの文学碑がありますが、錦川を少し下った川西には生家が残されています。庭の「薄墨桜」小さな花びらが小雪のように舞う季節には是非訪ねてみてください。昼食には名物「岩国寿司」を食べ、帰りにお土産を買ったりと、旅の気分を味わった一日でした。 (平山 記)

秋の公募観察会

大元公園～弥山本堂～もみじ谷

日時 11月 23日（祝）9:00～15:00

参加者 井上 岩崎 小方ペア 小川

近藤 佐渡 佐藤 末原 高光 坪井

野呂田 平山 前田（勲）舛田 丸平

宮崎 村上 森 森川 柳瀬 矢吹

横路 六重部 (PV 24名)

今年も紅葉シーズンの公募観察会が行われ、秋晴れのもと 40 人もの一般参加者でした。開会式、あいさつのあと、入念にストレッチ体操を行い、体力に応じて 4 グループに分れ 9:50 大元公園休憩所を出発。

シカの食害の話、モミ、カヤ、ミミズバイ、ヤマグルマ等、宮島特有の植物の話を聞きながら、ゆっくり登って行きました。

途中、9 月の台風被害にあった、大聖院ルートの通行止め箇所を横目に 12 時すぎから 13 時までに、次々と弥山本堂前に到着。

昼食後、体力自慢の人は頂上まで登りました。また小方さんがモミジとカエデの紙芝居、どんぐりや落ち葉のクラフト作品を紹介されました。13:40 弥山本堂前を出発、14:00 獅子岩分れ前で閉会式を行い下山し 14:45 無事もみじ谷に到着、各班ごとに解散しました。

今回はミャンマーからの研修生が 2 人参加し国際色豊かな観察会になり、大盛況のうちに終わりました。 (野呂田 記)



小方さんの紙芝居解説

自然解説指導者研修に参加して

村上 光春

11月 15～18 日、自然解説指導者研修、ボランティアコーディネータコースを受講してきました。

会場はいつもの山梨県清里の（財）キープ協会自然学校。受講者は 31 名。そのほとんどは、環境省や地方公共団体の自然環境施設のレンジャーやアクティブレンジャー等の若々しい職員。パークボランティアは私を含めて中高年の 3 名でした。

講師は、自然環境教育に燃えるキープ学校の若人 4 名と N P O で活躍されているベテラン先生 2 名。受講生はキャビンとレクチャー ルームで終日寝食をともにしながら 3 泊 4 日の長丁場。

研修のテーマは、ボランティアコーディネータが持っている「お困り問題にどう対処し、どう解決するか」

問題例は、次のようなもの。

(1) 登録しているボランティアさんが年

配の方が多く、平均年齢 60 代、どうしたらいいでしょう？

(2) ボランティアはいても、なかなか行事に参加してもらえない、どうしたらいいでしょうか？

(3) ボランティアのなかでも温度差。ボランティアの意識や取組み態度が異なります。

そのほかいろいろ・・・

解決策は？ N H K 番組の近所のお困り問題のようにすぱっとした妙案にはなかなか届きませんが、問題となっていることを、それは何故？ → それは何故？ → ・・・ → それは何故？ と遡って真の原因に近づくこと。

帰りの列車で信州の美しいカラマツの黄葉を眺めながら、よくよく考えてみました。そして、これって企業でやっている品質保証 QA、品質管理 Q C と同じような手法ではないかと。・・・ 目から鱗でした。 以上

投稿

石垣島(沖縄)の自然を満喫! 桴海於茂岳(477m)に登る

田村 博子

二月なのに石垣島は、もう初夏の陽気です。朝9時、ネイチャーガイドさんに迎えに来てもらい大好きな石垣島での自然観察の始まりです。今回は石垣島で野底岳マーペーに続いて二つ目の山登りです。

米原の天然記念物ヤエヤマヤシ林を抜け登り始めました。亜熱帯のジャングルを登つて行くと湿度が高くみると汗が噴き出します。



ヤエヤマヤシ

山ヒルに血を吸

われないよう注意も必要です。植物は、リュウキュウヒカゲヒゴなどの見上げるほど大型の羊歯植物、太い蔓性のモダマ、大きな葉のクワズイモなど等…本州では決して見られない光景が続きます。実を付いている植物は<黒い実>バリバリノキ・コバンモチ<赤い実>センリョウ・アオノクマタケラン<青い実>マ



オモロカンアオイ

ルバルリミノキ…花が咲いている木は、イヌガシ・ヤブツバキ・リュウキュウエゴノキ・ヒメサザンカ・オキナワジイ・

シキミ…など等。残念ながら花は見られませんでしたがアコウネッタイラン・トクサラン・リュキュウサギソウ・キバナシュスラン・カシノキラン等を確認しました。

標高 300m を超えると石垣島固有種のオモロカンアオイが自生しています。観察しながらさらに登るとセイタカズムシソウが綺麗な青い花を付けています。この植物は、コノハチョウの幼虫の食草と教わり沢沿いを歩いていると、何と! ガイドさんが指差す木の枝を見ると木の葉と見間違える蝶が静かにとまっていました。私はラッキーにも天然記念物のコノハチョウをこの目で見ることができた

のです、感激でした。さらに進みオキナワウラジロガシの大木の下で、高さ 6cm もある、巨大などんぐりを拾い嬉しくなりました。

頂上でガイドさん持参の郷土料理の詰まつ



セイタカズムシソウ

た美味しいお弁当を頂きサンピン茶を飲んで感慨に耽りました。

石垣島の亜熱帯の自然はまだ奥が深い。行く度見る度、違う発見や驚きに出来る。このままの姿が維持、保護され未来に残して欲しい…と。

◇ 編集後記 ◇

▼2月に実施した初めての鷹ノ巣砲台跡、公募観察会には予定していた3倍近い参加者があり、殆どの人が砲台跡探訪が目当てでした。宮島にこんな堅固な構築物があったのかという驚きと頂上から見渡す絶景に感動した人も多く、新しい観光スポットとして関心をもたれるようになるものと確信できました。これから砲台跡清掃整備に力が入るだけでなく今後も粘り強く一帯の環境整備を各方面に働きかけていきたいものです。 (足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 2 号館 6 階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505) 廿日市市宮島町 1862-18

(宮島桟橋 2 F)